

上腕と足首の血圧を同時に測定することで閉塞性動脈硬化を診断するABI検査

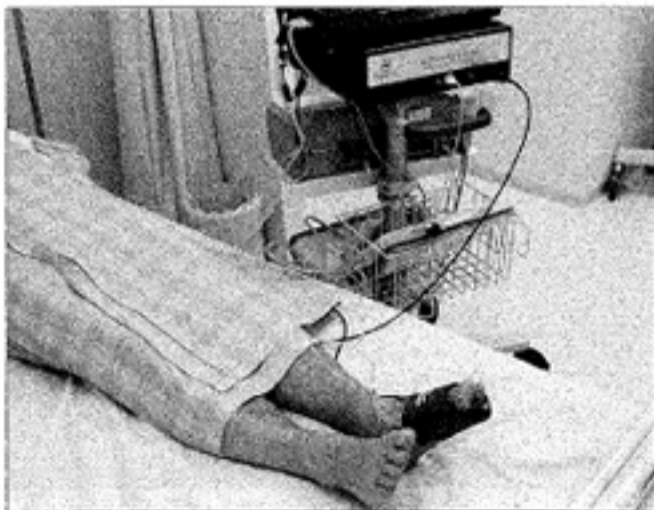
「当院ではエコー検査を主体とするバスキュラ・ラボ(Vascular Labo)を構築し、頸動脈から下肢動脈までの血管の状態を外来で専門的に検査することができず。そのなかで、左右の上肢(腕)と下肢の血圧を同時に測定することで、閉塞性動脈硬化症をより正確に診断するABIという検査方法があります。通常、下肢の血圧は上肢の血圧と同じか、いくぶん高いのが正常です。しかし、閉塞性動脈硬化症では下肢の血圧が上肢より低くなるのです。ABIは、



札幌心臓血管クリニックではエコー検査装置を2台備え、専門のスタッフが多くの検査を実施できる体制を整えている

四肢の血圧を自動的に測定する機械に5分ほど横になっていただくだけで簡単に計測でき、病気があるのか、ないのかを調べる検査として極めて有効です(藤田ドクター) ABI検査で異常が認められた場合、血管エコー検査、SPP(皮膚灌流圧)検査などで病変の部位、程度を正確に診断する流れとなる。 「血管エコー検査は、病変の部位や状態など細かい情報を得ることができ、そのうえ造影剤やX線も使わない身体に優しい検査です。また、血管エコー検査は下肢血管の異常だけではなく、頸動脈や腎動脈、手を動かすとだるさや痛みを起す鎖骨下の血管の狭窄、閉塞を調べることができます。腎臓へ血液を送る腎動脈

が狭窄すると、血圧が上がってくるのが分かっていきます。難治性の高血圧で薬をいくつか飲んでいる方や、薬を飲んでいても変動が激しい方は、腎動脈の狭窄が疑われる場合もあるので一度は検査することをお勧めします(藤田ドクター) SPP検査とは、皮膚の毛細血管レベルの血流を測定するもので、実際にどれだけ血が巡っているのかを診る方法。重症化した閉塞性動脈硬化症により潰瘍や壊疽が起きている場合に、治療によってどれだけ傷が治っているかを確認する方法として注目されている。ところで、閉塞性動脈硬化症はどんな人に多く発症しているのだろうか。 「年齢別に見ると、50歳以上の男性



毛細血管への血の巡りを調べるSPP検査

に多く、また動脈硬化の危険因子である高血圧、高脂血症がある方、喫煙者、そして糖尿病や虚血性心疾患(狭心症・心筋梗塞)、脳卒中の既往症がある方に多く発生する病気といえます。つまり、決して稀な病気ではなく、高齢化が進む日本では逆に極めて身近な病気であるといえるのです(藤田ドクター) 閉塞性動脈硬化症の予防としては、まずその危険因子である高血圧や高脂血症、糖尿病などを、薬物治療や運動によって十分にコントロールする必要があります。 「血液をサラサラにする薬の服用や運動でなかなか症状が改善しない場

病気

気になる病気の症状。治療を専門医がアドバイス

のはなし



循環器内科

足の痛みやしびれ……。湿布で済ませてませんか？閉塞性動脈硬化症を正しく知ろう

歩くとき足が痛くなり、しびれがある……。休むと治まる……。こんなとき、多くは筋肉痛の湿布を貼ったり、整形外科や整骨院に行くことが多いのでは？でも、本当は血管の病気、閉塞性動脈硬化症ということも……。早く見つければ割と簡単に治るのに、放置していると片足切断、さらには脳梗塞、心筋梗塞といった怖い病気に発展することもある。よくある病気なのに見過ごされがちな閉塞性動脈硬化症について札幌心臓血管クリニック(札幌市東区)の藤田ドクターに話をうかがった。

歩くとき足が痛みか……

ASO(Arterio Sclerosis/Obliterations)とも呼ばれる閉塞性動脈硬化症とは、主に下肢(脚)の血管に動脈硬化が起き、血管が狭くなったり(狭窄)詰まったり(閉塞)して、十分な血液が送られなくなって生じる病気だ。 「主に下肢について言われることが多いのですが、この病気の大事なところは全身で進行している動脈硬化のひとつの兆候に過ぎないということ。つまり、原因である動脈硬化が脳卒中や虚血性心疾患を起こす頻度

が高いということですよ(藤田ドクター) 安静時には症状がなく、歩いていると足に痛みが生じ、歩行を止めると楽になる(間欠性跛行)というのが、閉塞性動脈硬化症の典型的な症状。ふくらはぎが痛むことが一般的だが、腰痛を訴える患者もいる。

「病気が進行すると、短い歩行時間で症状が出るようになり、さらに進行すると安静にしている痛みを感じるようになります。この時期になると、足先は冷たく、色も紫色に変わってきて、最終的には潰瘍ができ、



札幌心臓血管クリニック CEO 藤田 勉

壊疽に至ります(藤田ドクター) 閉塞性動脈硬化症は、お風呂上がりなどに脈拍を確認することで、ある程度の自己診断が可能だ。脈拍を確認できる場所は、太腿の付け根や足の甲、くるぶしの下。左右の足で脈拍の強さに違いを感じたり、脈拍が触れなかったりしたら病院での検



札幌心臓血管クリニック(札幌市東区)



藤田ドクターが手がけたカテーテル治療の症例数は道内で最多

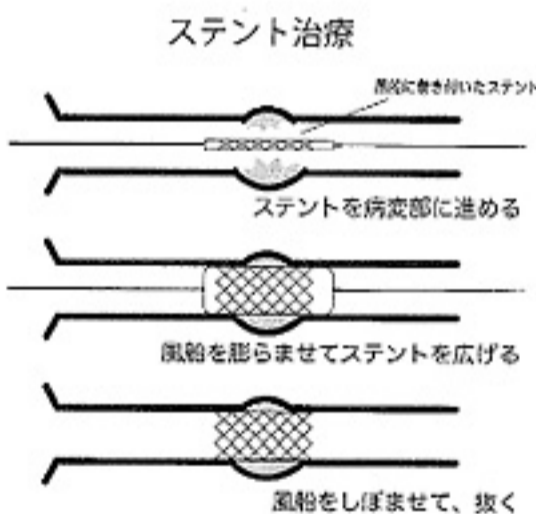
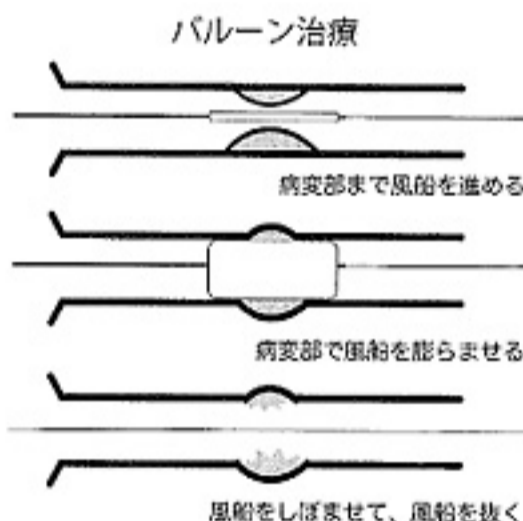
合、潰瘍や壊疽が起きている場合は、血行を再建する治療が必要です。その方法には、まずカテーテル治療があります。これは、細い管(カテーテル)を血管内に挿入して、風船の付いたバルーンカテーテルや、網目状の金属パイプ(ステント)で血管を広げて、血流を回復させる治療です」(藤田ドクター)

もうひとつの治療として挙げられるのが、バイパス手術だ。これは、外科的に皮膚を切開し、人工血管や自分の下肢静脈を使って、詰まった部分を迂回するように血管を繋ぎ合わせる方法。カテーテル治療に比べて長期成績が良好との報告もあるが、身体への負担が大きく、入院期間も

「当院では、カテーテル治療を専門的に行なっております。閉塞性動脈硬化症のカテーテル治療は、通常、足の付け根の動脈から行ない、局所麻酔のため患者さんの意識がハッキリした状態で治療が進められるものです。血管造影を実施し、病変部位を最終的に確認した後、病変部にガイドワイヤーという細い針金を通過させ、これに沿ってバルーンカテーテルを病変部まで持って行き、そこでバルーンを膨らませます。この時、バルーンだけで十分に血管が拡張されれば、手術終了となりますが、十分な場合は引き続きステントを病変部に留置します」(藤田ドクター)

一泊二日の治療も可能

1〜2週間と長い。



手術時間は病気の状態にもよるが、通常は1時間以内。ほとんど場合、治療の翌日には退院が可能だ。「動脈硬化は身体のだるさやさまざまな場所で起きて、さまざまな不具合を起します。特に、一度は虚血性心疾患(狭心症・心筋梗塞)や脳梗塞を起した方は心臓や脳の血管と同じように身体の血管のどこかで不具合を起していることもあるので、一度はすべてチェックされることをお勧めします。下肢の末梢血管の病気は、まだまだ認識されていませんが、とても身近な病気です。この病気を早期に発見することが、心筋梗塞や脳卒中を未然に防ぐことにもつながると思いますので、当院では今後も積極的に検査と治療にあたっていきたいと考えています」(藤田ドクター)



札幌心臓血管クリニック

CEO 藤田 勉 院長 腰山 博昭

- 診療科目 循環器内科 内科 心臓内科
- 診療時間 月火木金 9時から17時 (12時から13時30分まで昼休み) ・水・土曜日は9時から12時
・不整脈外来 第4土曜日 9時から12時
- 受付時間 午前8時30分から11時30分 午後1時から4時30分 ●休診日 日曜・祭日・心臓病棟・循環器科は24時間受付いたします

〒007-0849 札幌市東区北49条東16丁目8-1 TEL011-784-7847

<http://www.scvc.jp>